

No.	委員氏名	議題1	
		意見	コメント
1	滝田 良子 (会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンタルヘルスケア事業について、周知啓発の工夫をすること。以前利用したが、非常に良かった。多くの市民に活用のお得な機会を得るための周知方法は？</li> <li>・子どもの遊びと運動に関する事業について、保育者等の質の向上のために参加者の利用しやすい場所、時間についてどう考えていくのか。</li> <li>・子どもの遊びと運動に関する事業について、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を見合わせたのは当然と理解致します。未実施についての担保はいかがなのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンタルヘルス事業については、ウェブサイトやチラシ等で広報を図っておりますが、ニコニコの利用等、更なる周知啓発に努めてまいります。</li> <li>・子どもの遊びと運動に関する事業については、ニコニコ子ども館での開催が中心となりますが、参加した保育士等から施設への派遣を希望する声も出ているため、そのようなニーズへの対応も検討してまいります。</li> <li>・現時点では、開催時期をずらすなど最大限開催できる回数で計画しておりますが、実施できなかった分につきましては、双方協議の上、変更契約で対応する予定です。</li> </ul>
2	平栗 裕治 (副会長)	現時点では困難ですが、新型コロナウイルスにある程度対応可能な目標設定とすることを望みます。	貴重なご意見として参考にさせていただきます。
6	佐藤 広美	新型コロナウイルスの影響で子ども達の体力の低下、運動不足、肥満が懸念されている。目標の実施回数に対して参加人数が少ない事は予想されるが、今年度は、特に子ども達にとって重要な事業となると考える。	貴重なご意見として参考にさせていただきます。
7	佐藤 真澄	3. 子どもの生活環境のケア事業 絵本の読み聞かせについて、地域子育て支援センターにおいて、毎日、「おあつまり」を行っていて絵本の読み聞かせの時間が確保されているが、震災後の時間経過も踏まえ、本当に必要な事業なのでしょうか？	貴重なご意見として参考にさせていただきます。
8	三瓶 令子	<p>子ども子育て会議に参加させていただくようになってまだ日が浅いのですが、本会議での取り組みや実施体制が良く分かり、有難いと思っております。</p> <p>「仮設住宅の再編成等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」についても、こども部への対象事業としてさまざまな内容に取り組んでいる事が理解され、着実に復興への支援に尽力してきた足跡が読み取れました。</p> <p>申し上げるまでもなく、本学(郡山女子大学)は地域(郡山市)に存在する女子大学として、更なる市こども部との連携や、復興促進の一端を担う必要を感じております。</p> <p>現在具体的な方策がある訳ではありませんが、本学幼児教育学科の学生がどのような形で本事業に参加・支援できないかと考えております。</p> <p>そうは言いつつ、短大という短期間での養成ですので、学生の時間的制約も大きいです。</p> <p>将来に向けて、郡山市と本学とを結ぶ地域コミュニティができること願っております。(例えば、千葉市は聖徳大学と市が連携し、さまざまな取り組みを行っていますが・・・)</p>	貴重なご意見として参考にさせていただきます。
10	遠野 馨	コロナウイルスの影響により目標の数値はもっと少なくなるのでは？	現時点で最大限開催できる回数を目標としております。参加者の安全を考慮し、必要に応じて調整してまいります。
13	福内 浩明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は、コロナ感染拡大防止により、夏休みが短縮される見通しから、7月～8月の目標設定は柔軟に対応していただきたい。</li> <li>・心のケア相談会は、ベップキッズこおりやまだけでなく、ニコニコ子ども館でも対応を考えるべきではないのか？(3月26日の意見聴取の内容より)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点で最大限開催できる回数を目標としております。参加者の安全を考慮し、必要に応じて調整してまいります。</li> <li>・貴重なご意見として参考にさせていただきます。</li> </ul>
14	安田 洋子	子育てに関する心のケア相談会-実績19件について、内容がわからないので件数だけでは測れませんが、少ない印象があります。課題は何でしょうか。	心のケア相談会については、基本的に定期開催(開催月の第一月曜日)としてベップキッズの来場者を対象としておりましたが、より多くの方々が利用できるよう今後は周知啓発の方法について検討してまいります。
16	山田 祐陽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンタルヘルス事業に関して、震災後に生まれた子どもたちは、現在小学生の割合が多くなってきているかと思えます。ベップキッズなどは、未就園児の利用が多いと思われそうですが、児童の保護者向けの相談もあるのでしょうか。また、ベップキッズ以外の児童保護者向けの相談窓口はあるのでしょうか。</li> <li>・文科省の体力調査結果から、小学生や中学生に対するアプローチも重要だと思われそうですが、児童向けの運動や遊びの事業は実施されているのでしょうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベップキッズでの相談は未就学児童がメインとなりますが、小中学生の相談につきましては、ニコニコ子ども館5階の総合教育支援センターでも受け付けております。</li> <li>・教育委員会で実施している「郡山市立学校 児童生徒の体力・運動能力、発育の現状」の調査では、各学校において調査結果を参考に自校の実態を把握するとともに具体的な体力向上策の見直しを図っております。</li> </ul>
17	吉田 みね	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものケアプロジェクト-1.メンタルヘルスケア事業-①子育てに関する心のケア相談会は、相談件数19件/年とかなり少ないように思います。子育てに悩んでいる方は多いと思いますが、なぜこのような件数なのでしょう？担当するのは臨床心理士なので、もっと増えてもいいと思います。PRが足りないのか？連携上の問題なのか？もう少し分析が必要かと思えます。</li> <li>・地域子ども教室における地域事業への参加希望が89%にもかかわらず、実際の参加者が55%にとどまった要因は何でしょうか。当日キャンセルが多いのはなぜでしょうか。子どもが参加したい内容なのか？分析が必要かと思えます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心のケア相談会については、基本的に定期開催(開催月の第一月曜日)としてベップキッズの来場者を対象としておりましたが、より多くの方々が利用できるよう今後は周知啓発の方法について検討してまいります。</li> <li>・アンケート結果については具体的な事業内容での質問ではなかったため、希望者と参加者の差が生じたものと考えておりますが、子ども達が積極的に参加したい事業内容の検討が必要であるため、地域との調整を図って参ります。</li> </ul>